

「鳥取県の小中学生にケータイは必要ありません！」。県内の学校現場が連携して、小中学生に携帯電話を持たせないよう保護者に求める独自のアピールを発信した。文科省や県教委の「校内持ち込み禁止」方針をさらに進め、学校現場主導で「携帯不要」を訴えたもので、全国的にも珍しい試みという。

学校現場が連携、訴え

小中学生保護者にチラシ

鳥取県中学校指導部連盟と県小学校教育研究会生徒指導部、県小学校、中学校長会が合同で実施。昨年から、各学校の携帯電話に関する実態調査やPTA意識調査などを行い、全県的なアピール発信に向けて準備を進めてきた。

保護者にあて、小学生の健全な成長のために「携帯電話を持たせない」ことを強くすすめる内容。新学期を迎えるこの時期に合わせて、チラシを約五万部作成し、三月から四月にかけて新小学一年生を含めた県内の全小中学生の保護者に配布する。

アピールでは、好奇

心旺盛で判断力が未熟な小中学生が携帯を持つことによって①トラブルに巻き込まれる②学習時間や睡眠時間が少なくなる③コミュニケーション能力が育ちにくい④自主性が育ちにくい⑤などの問題が発生していることを挙げ、子どもに携帯電話を持たせないことが一番の方法だと強調。

教育

ご意見をお寄せください

〒680-8688(住所不要)

新日本海新聞社報道部教育担当

電子メール kyouiku@ninn.jp

ファクス 0857(37)0037

携帯不要！

2009.3.15

鳥取県の小・中学生の保護者のみなさまへ

小・中学生にケータイは必要ありません！

インターネットや携帯電話の普及により、通信・情報技術の発展がもたらした利便性は、社会生活に不可欠なものとして定着しています。しかし、この利便性のもたらした一方で、子どもが携帯電話を持つことで、学習時間や睡眠時間が減り、コミュニケーション能力が育ちにくいなどの問題が発生していることが、全国的にも珍しくありません。

私たちは、鳥取県の小・中学生の健全な成長のために、「小・中学生にはケータイを持たせない」と強くおすすめています。

- 好奇心旺盛で判断力が未熟な小・中学生が、携帯電話を持つことによって次のような問題が起きている。
1. トラブルに巻き込まれる！
 2. 学習時間や睡眠時間が減っている！
 3. コミュニケーション能力が育ちにくい！
 4. 自主性が育ちにくい！

また、携帯電話の普及により、子どもが携帯電話を持つことで、学習時間や睡眠時間が減り、コミュニケーション能力が育ちにくいなどの問題が発生していることが、全国的にも珍しくありません。



鳥取県内の小中学校現場が連携して発信した「携帯不要」アピール

鳥取県の大切な子どもを守っていくために「多くの問題から子どもを守るのは大人の責任。」ケータイを持たせない「愛」を持つ」と呼びかけている。

県中学校指導部連盟の木下公明部長（鳥取市立湖南学園中学校校長）は「一律に禁止はできないが、多くの子どもにとって携帯電話は必要ない。掲示板やブログへの誹謗中傷の書き込みなどで傷ついたりトラブルになるケースもある」と指摘。

中学校で起きている問題の多くは、小学校にも当てはまる。「小中学校が連携して、子どもたちの現状を一番良く分かっている学校現場からの強いメッセージ」として、「携帯不要」を呼びかけた。保護者の理解も得られると思う」と話している。